

## 境界から生まれる領域と空間に関する研究

日大生産工 (学部)    ○伏見 佑介  
日大生産工            篠崎 健一

## 1. はじめに

人の暮らしの質は、生活する空間の質と深い関係にある。人々の生活に近い視点で建築を考えることは、より良い建築空間を生むことにつながると考える。

「境界」は我々が生活する日常の中の至る所に介在し、空間を形づくっている。それは必ずしも物理的なものとは限らず、様々な要素によって生み出され、我々の生活する空間を構成している。境界についての理解を明らかにすることは、人の暮らしに近い部分から空間を考えることにつながるのではないか。本研究は、境界がつくり出す領域や空間、または境界そのものに意識を向けて、魅力的な空間創造の一助となるような空間の要素を見出すことを目的とする。

## 2. 対象および分析方法

## 2.1. 写真日記の作成

普段の生活の中で、境界またはそれに伴う領域や空間に関する経験を写真に収め、「写真日記」として収集する。

写真日記とは、絵日記が日々の出来事や経験を作者の視点から絵と文章によって記録するように、フィールドで目の当たりにした出来事や経験したものごとなどを写真と文章によって記録するものである。<sup>1)</sup> 自分の体験した空間を撮影した写真と、写真から誰もが同様に確認できることを記す**事実記述**、写真から読み取れることや想像できることを記す**現象記述**、自分が

体験したことや撮影した意図を記す**経験記述**の3つの文章で1枚の写真日記とする。

日時場所を限定せずに普段の生活の中で収集した写真日記は生活の体験の記録であり、記録者の暮らしそのものに基づいている。これにより、人の生活に近い目線から境界についての考察を行うことができると考えている。Fig. 1に写真日記の例を記す。

## 2.2. 情報の構造化

写真日記を基礎資料として、写真KJ法<sup>1)</sup>によって情報の構造化を行う。写真KJ法は文字情報だけでなく、視覚情報に基づいて行うKJ法<sup>2)</sup>である。

基礎資料を関連性のある資料ごとにグループとし、グループ全体の情報を表現するような文をそのグループの表札とする。第一段階としてできるグループをAとし、その後同様の作業でB、Cとグルーピングを行い、最終的にすべての資料の内容を包含する表札をもつグループDを最上位とする情報の構造を得る。



Fig. 1 写真日記の例



Fig. 2 基礎資料とグループの包含関係

A Study to be a related to Area and the space born from the boundary

Yusuke FUSHIMI, Kenichi SHINOZAKI

### 3. 分析結果

筆者は、2015年4月14日から9月8日までの間の生活の中で合計60枚の写真日記を作成した。これは、生活の中で偶然訪れた場所や気づいた瞬間を記録したものであり、筆者の暮らしに基づいている。

Fig. 2に基礎資料の属するグループの包含関係を図示し、Fig. 3にグループA～グループDの表札とその階層を示した。以下、グループA(A01～A32)、グループB(B01～B14)、グループC(C01～C06)を経て、最終的に得られた境界がつくる領域や空間のもつ性質(D01～D03)を記す。

**D01** 空間の質が変化している場所に境界が生まれ、境界の感じ方や役割も周りの空間の質によって変わる。物理的に場所を分断するものは、空間の質を変化させる要因の一つでしかなく、必ずしもそれが境界になるとは限らない。境界は固定的なものではなく、空間の質によって変化する流動的なものであるといえる。

**D02** 人の想像の中だけで境界が生まれることがある。この境界は、受け取り手によって形や明確さが大きく変化したり、同じ人でもその時の考え方や状況によって感じ方に違いが出る。また、こういった境界は物理的に区切られたり、空間の質が変化している場所でもなくとも生まれる。

**D03** 自然は切れ目のない連続体で、人間のつくる境界を無秩序に越境するが、人間の生活は秩序によって構成されており、自分たちで境界を定めて、自然を管理していく。

#### 「参考文献」

- 1) 諏訪正樹, 藤井晴行, 知のデザイン-自分ごととして考えよう, 近代科学社, (2015) p.142-146.
- 2) 川喜田二郎, 発想法, 中公新書, (1967)
- 3) 保坂陽一郎, 境界のかたち-その建築的構造, 講談社サイエンティフィク, (1984) p. 128
- 4) ヘルマン・ヘルツベルハー, 都市と建築のパブリックスペース - ヘルツベルハーの建築講義録, 鹿島出版会, (1995), p.33

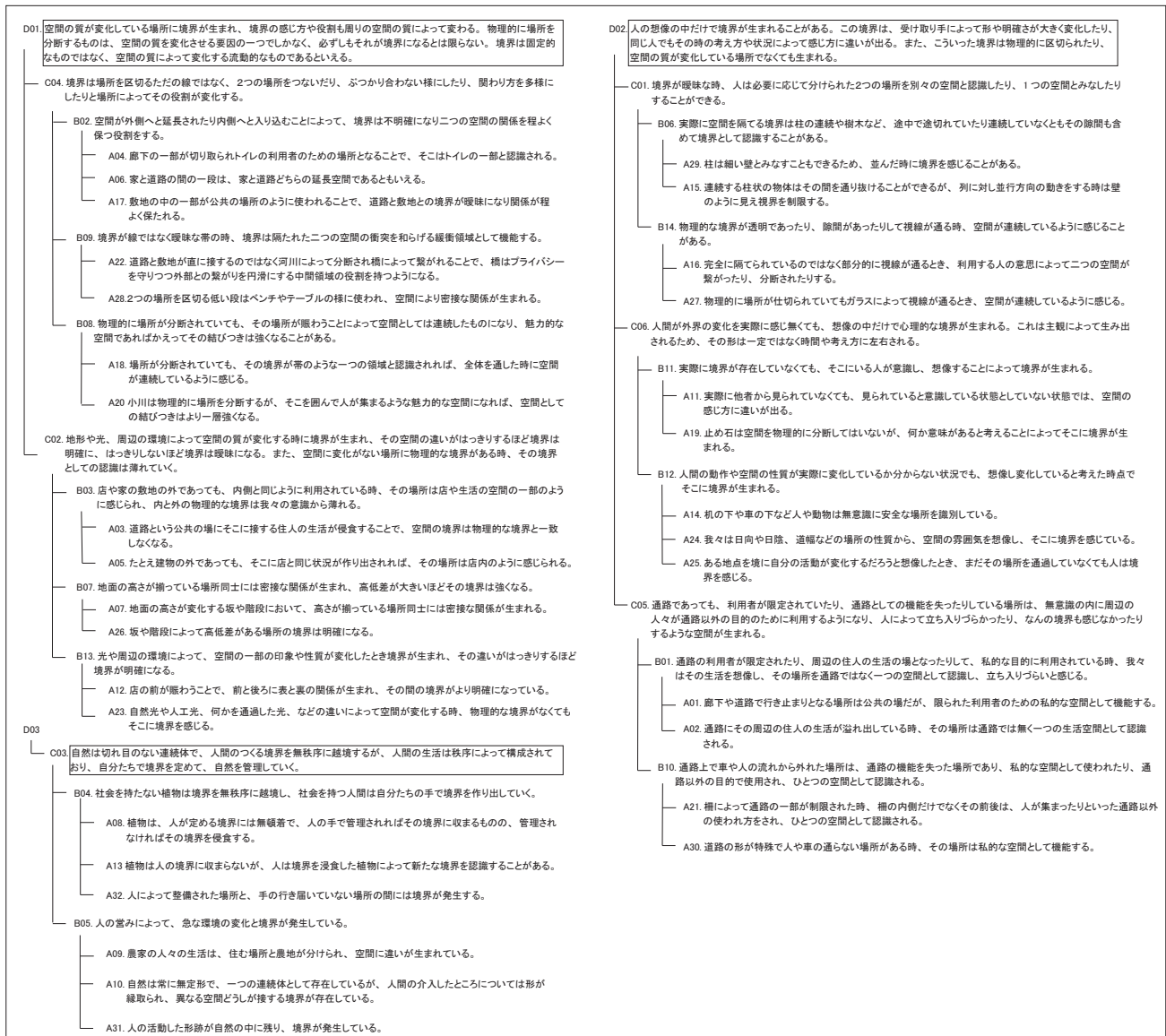


Fig. 3 A～D グループの表札の階層